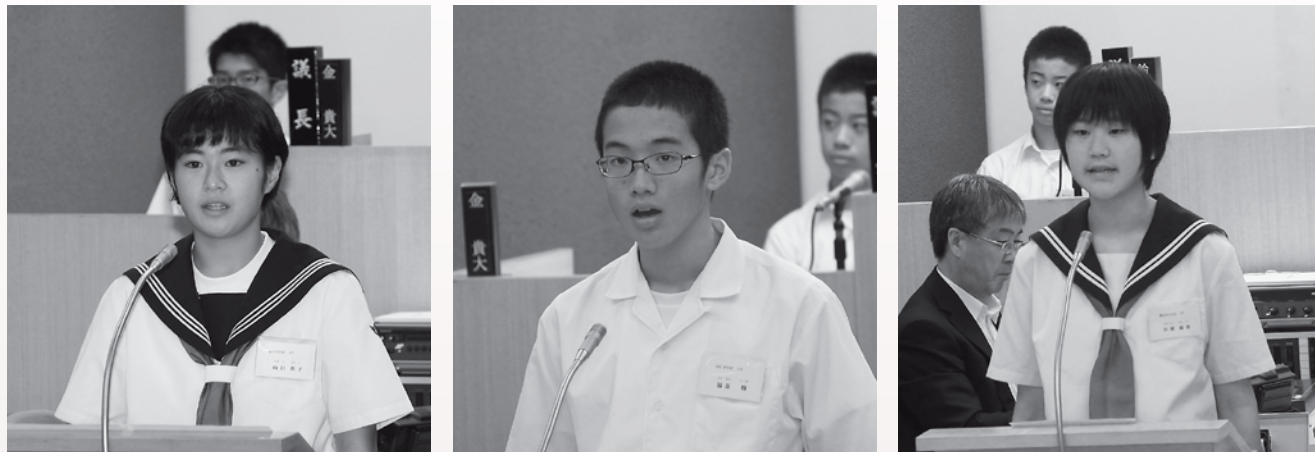




▲自分たちの考えをまとめ、「きたあきた子ども議会宣言」やまちづくりの提案として披露しました



▲市長の答弁に対する再質問



▲市当局を背にして堂々と質問

中学生の視点で 新たなまちづくりを提案



きたあきた子ども議会

北秋田市として初めての中学生による子ども議会が8月7日、議事堂で開かれ、15人の議員がまちづくりに対する新たな提案をして津谷市長の考えをいただきました。子ども議会は、行政や市の課題に関心を持ち理解を深めるとともに、本市の教育課題である「問いを発する子ども」の育成などを目的に開催されました。

● 市の将来を支える一人として 子ども議員が議会に臨む

子ども議員には、市内5校の中学校から3人ずつ選ばれ、事前研修として議会の仕組みや議員の役割、市の主な施策・事業について学習したほか、議長団、安全で住みよい街、観光・産業、教育・スポーツ、健康・福祉のグループに分かれて、議事の進め方の練習や質問書などを作成し、議会に臨みました。

議会には、市当局から津谷市長、虻川副市長、工藤副市長、三澤教育長を始め、部長や担当課長が出席。議長団による開会宣言、経過説明に続き、「北秋田の歴史や文化に関心をもち、北秋田の将来を支える一人として学んでいきます」など5項目からなる「きたあきた子ども議会宣言」(案)が議長団から提案され全会一致で採択されました。

一般質問では、4つのグループが8項目にわたり質問し、津谷市長が答弁しました。

市民が一斉に雪かきする日を 安全で住みよい街グループ

【質問】北秋田市は降雪量が多く、お年寄りで一人暮らしをしている人は、雪かきがいへんなので、市民が一斉に雪かきをする日を設けては、【答弁】一斉に雪かきをするためには、雪かき後の排雪作業や必要な機械の準備などの関係から難しいですが、自治会ごとに区域を分けて、実施する日をずらすことなどで可能になると思いますので、検討していきたい。

自然を生かした名所ツアーを 観光・産業グループ

【質問】北秋田市の自然を生かして、名所をめぐるツアーをつくっては、【答弁】まずは市民の皆さんに地元

の観光地や観光施設を訪れてもらい、ツアーの提案やどうすれば興味を持つてもらえるのかなどのアイデアを市にいただければと思います。北秋田市は全域が観光名所であり、市民全員がツアーガイドであるという気構えで、市の魅力を全国に発信していければと考えています。

チャレンジデーで金メダルを 目指す取り組みは 教育・スポーツグループ

【質問】チャレンジデーを多くの人に知ってもらうための取り組みや、運動を行ったことを簡単に報告するための方法は、

【答弁】自治会長会議や町内会の会議など、機会あるごとにチャレンジデーをPRしながら、将来的には、自治会や町内会の年中行事になるように、また、市内の企業にも、会社ぐるみで取り組んでもらえるようにお願いし、参加率50%以上を目指したい。運動後の報告は電話やFAX、メールでの受付けもしましたが周知不足もあり、次回までにどうすれば報告しやすいかを検討したい。

お年寄りにテレビカメラや 音声付き通信機器の配布を 健康・福祉グループ

【質問】一人暮らしのお年寄りが安

● この経験を今後に生かす 子ども議員が抱負を述べる

閉会にあたり、議長団を務めた福森樹さん(阿仁中3年)が「子ども議会に参加でき、市の未来について考える機会をいただいたことなど、たいへん勉強になりました。この経験を学校生活や自分の生き方にも生かしていきたい」と子ども議員を代表してあいさつしました。

続いて、子ども議員が感想を発表し、最後に松尾秀一市議会議長が「市が抱える問題の要点をついた質問で、議事運営も円滑でした」と講評しました。傍聴席には、保護者や先生、市議会議員などが詰めかけ、子ども議員による議事進行や質問に熱い視線を注いでいました。